

オポナカムラ 彩発見!!

オポナカムラは古代語で「大中村」の意。
 国指定史跡「大中遺跡」の最新の調査をもとに、様々な観点から
 ふるさとの誇れる遺跡について考えてみたいと思います。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000



播磨町マスコットキャラクター
いせきくん、やよいちゃん

多種のどんぐりが
あります



11 「古代の村」では弥生時代の植生を復元

播磨大中国古代の村（大中遺跡公園）には、春から秋にかけて幼稚園児や小学生をはじめたくさんの人たちがやってきます。冬場でも、温かい日をはじめ郷土資料館や県立考古博物館などで催しのある日は、子どもたちや親子づれなどでにぎわいを取り戻します。また、年間を通じて散歩やウォーキングをする人たちが毎日公園を横切っていくきます。

遺跡公園では、弥生時代の復元住居ばかりが目を引き、植えてある木や草に目をとめる人は少ないようです。この公園のもう一つの特徴は、弥生時代に生えていた植物が復元されていることです。弥生時代に生えていた植物が、どうしてわかったのでしょうか？

それは、弥生時代の遺跡の発掘調査で出土した種子のほか、肉眼ではほとんど見えない花粉を顕微鏡で観察する方法で、当時生えていた植物を知ることができます。ただ、オポナカムラでは、雨で流されたり腐食してしまったりしたのか、種子や花粉はみつかっていません。

公園に植えたのは、どんぐりの木で、クリをは

じめコナラ、クヌギ、ウバメガシ、アラカシ、スダジイ、マテバシイなどです。どんぐり以外では、トチやオミグルミ、ヤマモモ、クワ、カヤ（針葉樹）などの木も植えられ、これらの実を弥生時代の人たちは食べていたようです。

秋になると、幼稚園児や小学生たちが、公園にどんぐり拾いにやってきます。拾っているのは、コナラやアラカシなどの木の実は、どんぐりは、ブナ科の木の実の総称ですが、特定の木の実だと思っている人もいるようです。

さらに、郷土資料館の別府鉄道機関車の近くにカラムシが植えてあります。カラムシは、多年生の植物で、茎の皮からは衣類や紙、魚網などに利用できる丈夫な繊維が取れるため、6000年前から栽培されてきました。この植物で作る貫頭衣（かんとうい）は、保湿性や保温性にすぐれ、夏は涼しく、冬は温かく感じるなどスパー繊維と呼ばれています。地球温暖化が進むと、古代生活が見直され、案外どんぐりクッキーやカラムシトリーナーなどが流行しているかもしれません。

町の人口 1月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)
 34,246人(+42人) 男…16,817人(+22人) 女…17,429人(+20人) 世帯数…13,666(+19)

